



# 広島の歴史と被服支廠

広島市郷土資料館 前野やよい

# 1 城下町から近代都市へ 軍都広島への歩み



戦前の広島城天守閣

## 広島

政治・経済・軍事の拠点である広島城を核に形成された城下町。江戸時代以降、干拓によって新開が形成され、町域が拡大する。

## 廃藩置県後の広島城

軍事の拠点としての機能のみ残り、旧広島城内外へ多くの軍事施設が設置される。

明治 4年(1871) 鎮西鎮台第一分営の設置

明治 6年(1873) 第五軍管区広島鎮台

明治19年(1886) 鎮台条例の改正により、第五師団に改称

## (2) 日清戦争(明治27年(1894)～28年(1895))

近代日本が戦う初めての本格的な対外戦争

明治27年(1894)5月の朝鮮での大規模農民反乱をきっかけに  
出兵、第五師団も動員

8/1 宣戦布告、日清戦争開戦



広島大本営跡

☆ 広島大本営の設置 明治27(1894)9/15

### 設置の下地

明治22(1889) 11/30宇品港の完成→大陸派兵のための拠点港

明治27(1894) 6/10山陽鉄道糸崎－広島間の開通

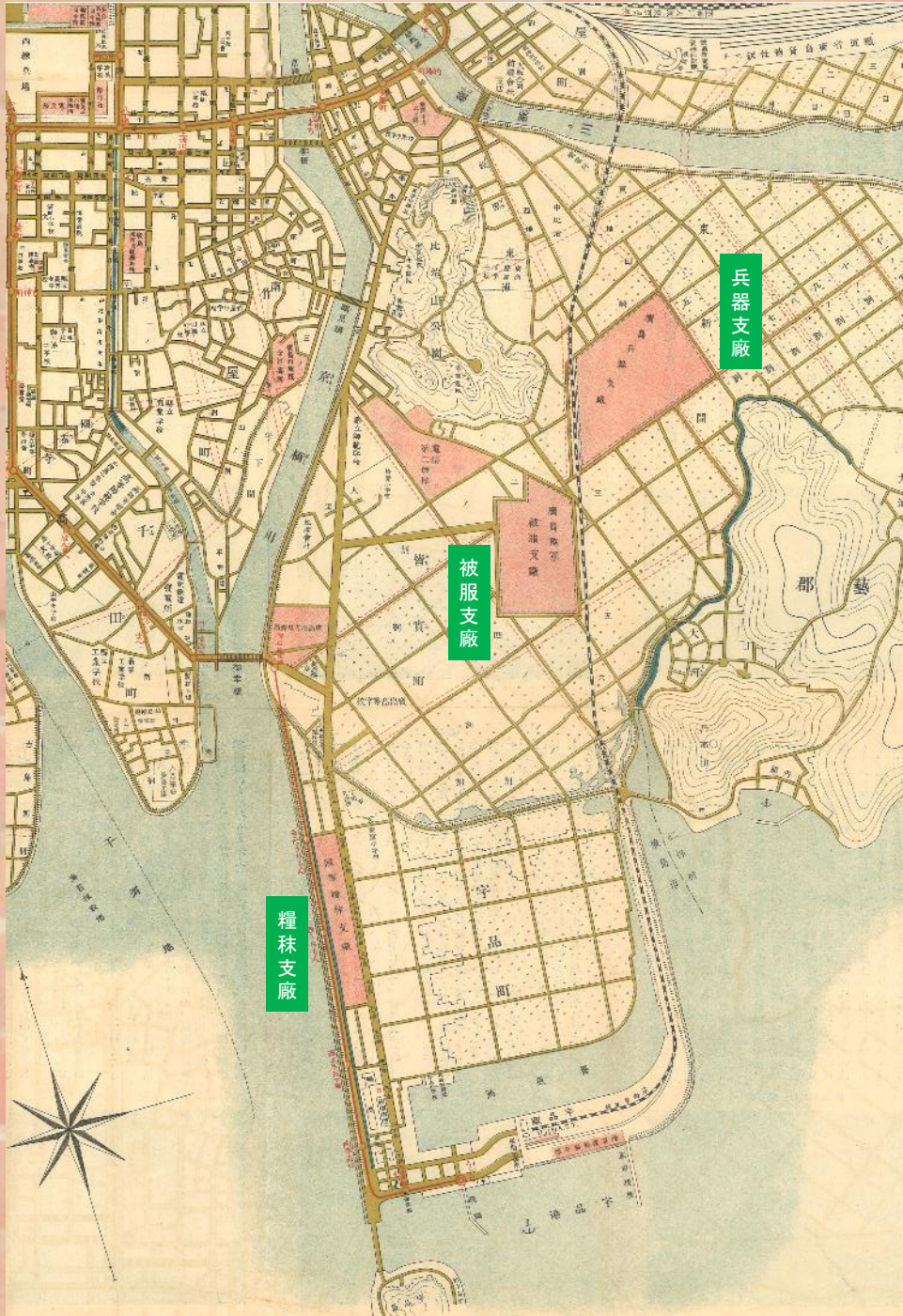
8/4起工、8/20竣工 仮設の宇品軍用鉄道

→全国から広島に集結し大陸に向かう兵や物資を速やかに輸送

明治天皇、内閣首脳らの来広、臨時帝国議会の開催...臨時首都の様相を呈する。

明治28年4月 日清戦争に勝利

→ 陸軍の兵站基地(前線に軍需品や食料などを送る、戦争の後方支援のための基地)としての広島の位置づけが確立。その後、北清事変、日露戦争など相次ぐ戦争で軍事施設等が設置され、軍都としての性格が強まる。



### (3) 兵站基地化の中での軍事施設等の設置

明治28(1895) 似島臨時陸軍検疫所(似島検疫所)

明治29(1896) 臨時陸軍運輸通信部宇品支部

(明治37年:陸軍運輸部)

明治30(1897) 陸軍中央糧秣省宇品支廠

(明治40年:宇品陸軍糧秣支廠) 「三廠」

広島陸軍兵器支廠

明治38(1905) 陸軍被服廠広島派出所

(明治40年:広島陸軍被服支廠)

明治39(1906) 宇品軍用鉄道の国有化

明治40(1907) 広島陸軍兵器支廠比治山兵器庫

明治44(1911) 宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場

☆ 第五師団の本拠地・宇品港を拠点とした兵站基地

☆ 周辺地区一帯で工場、住宅、学校等が増加、多くの雇用を創出

## 2 被服支廠と広島

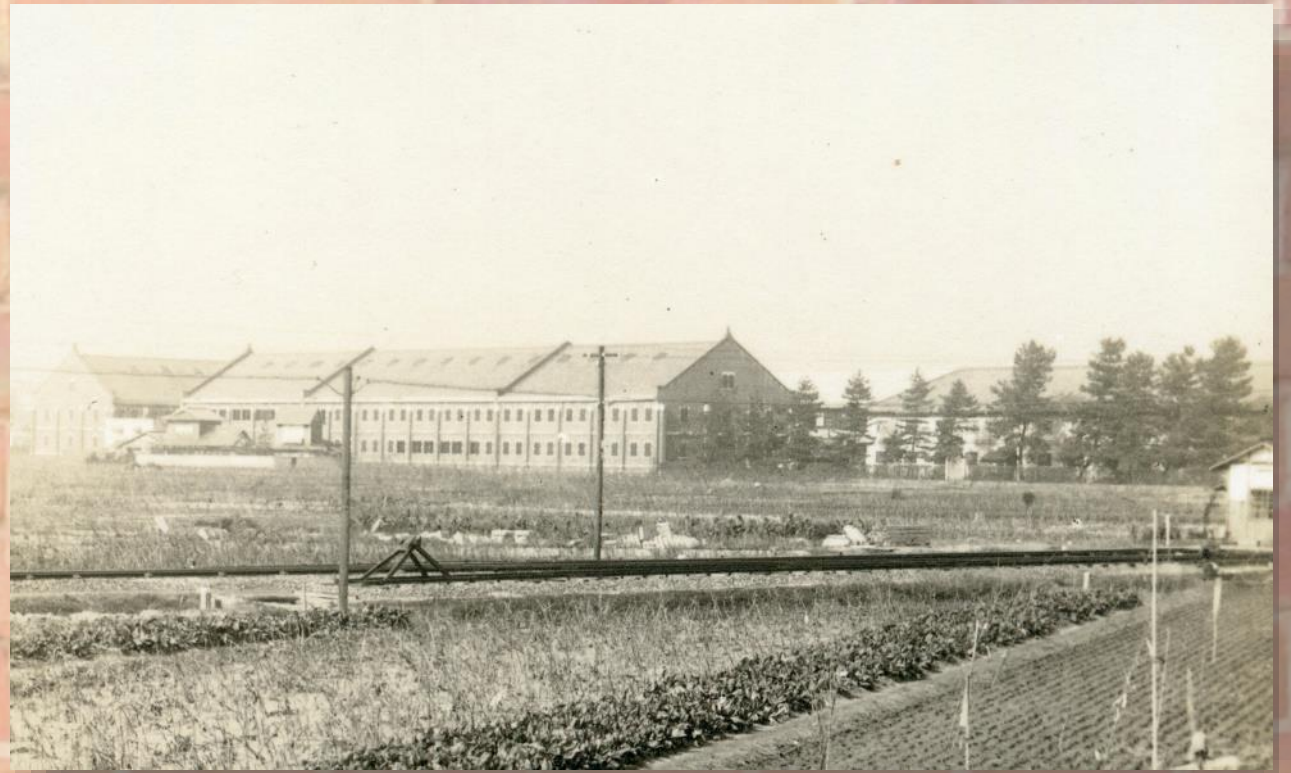
### (1) 被服支廠の沿革

明治19年 東京本廠が設置  
(1886)

明治36年 大阪支廠が設置  
(1903)

明治38年 日露戦争を契機に、比治山辺りに還送  
(1905) 被服品の洗濯修理工場建設が決定、  
4月、陸軍被服廠広島派出所が設置され、  
秋に皆実村に入る。

明治40年 広島陸軍被服支廠に昇格  
(1907)



昭和10年代 被服支廠遠景

## (2) 被服支廠の業務

被服素材等の調達、分配、貯蔵、保存、被服等の製造、製造機械等の修理、調査、研究、試験、士官等候補者任用の試験、教育など

東京本廠

— 大阪支廠

— 広島支廠

支廠長—廠員—技師—下士—判任文官  
職工 男女工

比較的高めの賃金で雇用、福利厚生も整っていた。

庶務部

支廠の庶務

購買部

被服原材料・製品・物資の購入、労働力調達

製造部

主要被服の製造(縫製、製靴)

補給部

被服原材料、製品等の検査受領、倉庫への格納、各部隊・製造部への送達



被服支廠制服(夏服)の女工

### (3) 被服支廠と市民

- ・職工等の勤務先であり、資材・製品の取引先であり、建物建設等の請負先でもあった。
- ・勤労奉仕、勤労働員の間となり、広島県立広島第一高等女学校の生徒等が動員されていた。

### (4) 原爆投下と被服支廠

- ・すでに木造建物の多くが取り壊されていた。職員や物資の疎開、作業場の分散化が行われ、支廠本部には製造施設は残されていなかった。
- ・建物の倒壊・火災はなかったが、レンガ倉庫の窓の鉄扉がゆがむなどの被害があった。臨時救護所となり、多くの被爆者を収容、治療にあたるも甲斐なく多くの死者が出た。峠三吉「倉庫の記録」(『原爆詩集』所載)にその様子が描かれている。



爆風で変形した鉄扉 平成25年撮影

## (5) 戦後の被服支廠

・疎開させていた膨大な被服品の多くは、一部を残し進駐軍が本土に進駐する前に県に保管転換したり、民間に払下げたりした。



昭和40～50年代年撮影

・残っていたレンガ倉庫や木造建物は、県立広島第一高等女学校(後の広島皆実高等学校)、県立広島工業高等学校、広島高等師範学校(後の広島大学教育学部)で校舎、寄宿舎、学生寮などとして使用された。また、日本通運株式会社の倉庫として使用された。木造建物は火災や解体で昭和52年(1977)までに失われ、レンガ倉庫も倉庫としての使用停止や寮の閉鎖により、平成7年(1995)で使われなくなった。

☆ 旧被服支廠の建物は、戦後の復興にあたり、学校、企業に活用され、人々のくらしの一端を支える役割を果たした。



おわりに



使用の資料・写真は全て広島市郷土資料館所蔵・撮影のものです。